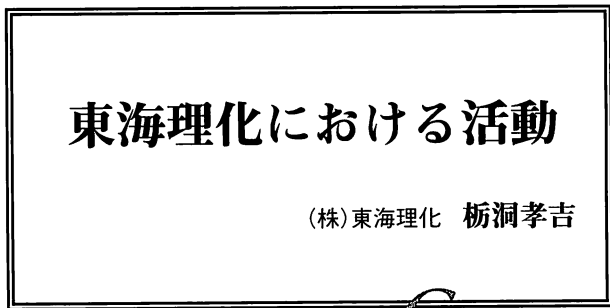


グループ活動紹介



1. はじめに

東海理化は、自動車の乗員席周りのヒューマン・インターフェイス部品、セキュリティ部品、セイフティ部品の開発から製造まで行うメーカーである。1990年代後半より品質工学を導入し、2014年までに品質工学研究発表大会で14件の研究発表を行い、品質工学会誌に7編の論文を掲載している。また、研究発表大会や学会運営に関する仕事も担当している。そのような理由からか、品質工学会ではそれなりに知名度が高いようである。

2. 品質工学の導入

弊社における品質工学は2つの独立したルートで導入されたことが特徴である。

一つ目のルートが生産技術部門からの導入である。

1995年当時、ある製品の技術的なアドバイスを得るために矢野宏を訪問したことが契機である。1996年に矢野による講演会、1997年より射出成形に関するテーマ活動として「成形品質向上活動」が始まり、やがて技術分野を限定しない「品質工学指導会」に変化した。また2000年からは自主的な活用の拡大を目指し、「品質工学研究会」と名称変更を行い、矢野博士に継続してご指導を頂いている。

もう一つのルートが品質保証部門からの導入である。1996年当時取得を目指していたQS-9000の活用推奨手法に品質工学があり、品質工学の社内導入を行うため社外講師を招き教育を行ったことに始まる。教育は2001年まで継続した。2004年に未然防止活動を推進する品質調査部が新設されたのをき

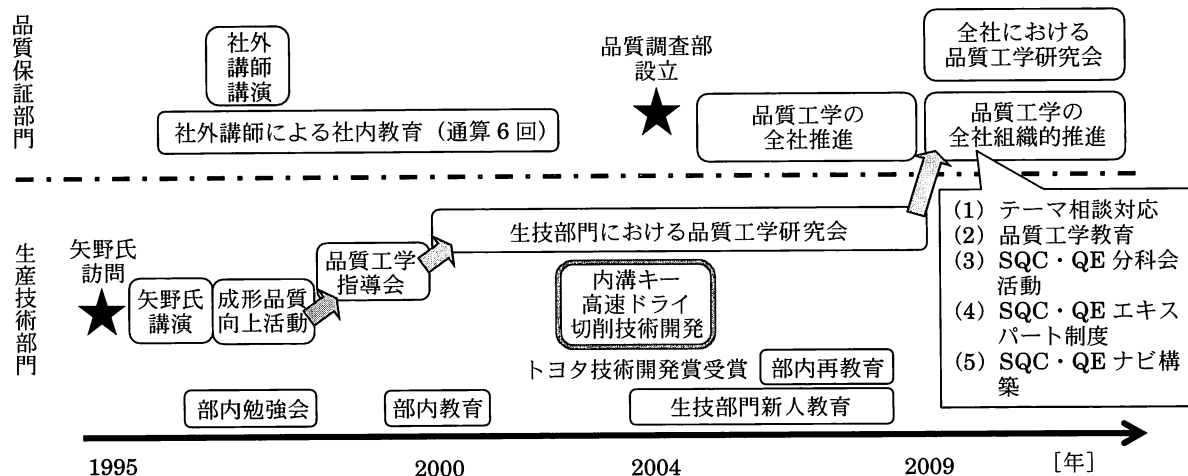


図1 東海理化における品質工学活動の変遷